

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600826		
法人名	社会福祉法人 希望の里		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	〒059-1275 苫小牧市字錦岡521-444 (電 話) 0144-68-6231		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月15日	評価確定日	平成22年3月23日

【情報提供票より】(平成22年1月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	15.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	約15,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	340 円	昼食 420 円
	夕食	440 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (2 月 15 日現在)

利用者人数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	5 名
要介護5	4 名	要支援2	0 名
年齢	平均 78.6 歳	最低 56 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団韃医塾苫小牧東病院 医療法人社団苫小牧緑ヶ丘病院 榊原歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、採光を工夫して、憩いの場である中庭を取り巻くように、広い廊下、居間、手芸等を行う作業場、食事を摂る場所を配置している。日当たりの良い南西側に居室が位置している。手洗い、浴室、キッチン、事務室、玄関等は機能的でありながら、ゆったり過ごせる配慮をしている。また、事業所の周囲は自然に恵まれた環境である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員を育てる取り組みでは、スーパーバイザーである施設長による内部研修の充実を図り、医療福祉チャネルの活用と、職員それぞれに合ったCDを作成するなど、ながら勉強を行う工夫をしている。介護計画については、長短期の見直し期間を明記し、モニタリング、カンファレンスは、偏りを避けるため数回行い計画の見直しにつなげている。利用者の状態に変化があった場合は、かかりつけ医と密に連絡を取り対応している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義を理解し、評価を行った際に出た気付きや課題は、検討し、改善へと結び付けている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、管理者、介護支援専門員、町内会長、地域包括支援センター職員、利用者家族代表で構成している。話し合いの過程で、一般常識と福祉行政や事業者とのギャップを感じたため、新年度から町内会への参加を決めた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情申立担当者を明記しており、公的機関も掲載している。また、意向を表出することが困難な利用者の介護計画書には、家族の意見を細かく記録している。家族の来訪時に声かけし、出された意見等は記録している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所の敷地に面した広い通りで地域住民が散策やウォーキングを行う際、挨拶を交わしており、事業所へ立ち寄る住民もいる。また、母体法人で収穫した農作物の販売所手伝いで、地域住民と交流することは利用者の励みとなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた苫小牧で暮らし続ける支援、認知症とその他の症状もある人も、優しく、温かくぬくもりある支援を行い、望めばターミナルまでを約束した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関から室内へ入った正面に掲示し、職員全員が自分のネームプレートホルダーに名札と一緒に入れており、常にケアの意識の中心に置いている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の喜びにつながるので、家族に利用者の知人が面会をするよう働きかけている。また、事業所が広い通りに面しているので散策やウォーキング中の地域住民への挨拶が定着し、事業所へ立ち寄る住民もいる。母体法人の農作物販売所手伝いで、地域住民と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解している。職員は、気づきや見直しのきっかけとして、改善課題について検討会議で話し合い、改善へと結び付けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は、運営推進会議を事業所からの報告や広聴の場というだけではなく、貴重な学習、研修の機会と位置づけ、一般常識と福祉行政、事業所のギャップを修正する機会としている。話し合いの結果、町内会への加入を申請し、新年度からの加入となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所は生活保護法の指定事業所であるため、市担当者とは常に連携を取り、業務に当たっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊誌で事業所の様子を知らせている。また、遠方の家族や来訪できない家族には利用者の状況を担当者の手紙で報告し、家族の安心につなげている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当者を明記しており、公的機関も掲載している。また、来訪時での話し合い、利用者の状態変化の際の電話連絡等、できるかぎり家族の意向に沿ったサービスにつなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動による利用者への影響を理解しており、最小限の異動にとどめるよう配慮している。異動の際は、同フロアの職員が後任担当に当たり、スムーズな引き継ぎに努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパーバイザーの施設長の内部研修を充実させ、医療福祉チャンネルの活用や職員一人ひとりに合ったCDを作成し、何時でも、ながらも勉強ができるようにしている。また、資格取得対象者には、勤務調整を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧グループホーム連絡会や実務者研修等で、情報交換や相互交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が見て、感じて納得できるよう、見学を行ったり、職員が利用者の自宅や以前のサービス利用先を訪問するなど馴染みの関係づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が人生の先輩であるとの意識を持ち、利用者が先生となる場面を積極的に設けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と共に過ごす中で、利用者一人ひとりの過ごし方の希望、意向の把握に努めている。意向を確認することが困難な場合は、家族に相談しながら情報を把握し、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員による、モニタリングからカンファレンスを実施している。サービス担当者会議に家族も参加し、サービス毎の長、短期の目標を介護計画書に明示している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は6ヶ月であるが、利用者の状態が変化した際には、かかりつけ医との連携により対応し、随時介護計画書を変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な外出、法事の送迎、外食等、柔軟に対応している。また、家族の宿泊も事業所内の多目的室や母体法人のゲストハウスを提供するなど支援の幅を広げている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関やかかりつけ医との連携を密に行っている。医師は認知症について理解しており、受診時間の優先など配慮されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所開設時よりターミナルケアを目指しており、重度化した場合や終末期に対する指針を作成し、利用者や家族に伝え、介護計画に反映している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の尊厳を損なう言葉かけをしていない。また、記録の閲覧や居室を観察する場合の許諾もきちんと得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険を伴う行為以外は、利用者の希望に沿った支援を行う体制である。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンカウンターにメニューの写真をクリアシートに挟み、利用者が食べたいものを選ぶなど食事を楽しめることができるよう支援している。また、前回の調査で、職員と利用者協働の食事体制の取り組みが期待したい項目にあったが、利用者の重度化に伴い、食事全介助者が多く職員が普通の食事を摂れないことから、双方の解決策として、職員の交代制とした。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴について真夜中以外に対応している。また、足浴、シャワー浴、清拭等利用者の体調や希望になるべく浴うよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴をアセスメントや日々の会話で把握し、職員間で共有しており、それを活かした役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	農作業に誘う等、天候と体調に配慮しながら外出支援している。また、隣接している同一法人の事業所へ利用者を見かけた場合知らせるよう依頼している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置しており、日中は施錠していない。防犯上、夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時災害時マニュアルを整備し、消防署との避難訓練で2回に1回は、夜間を想定して取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の栄養摂取バランスは、水分補給チェック、食事摂取チェック表等で確認し、定期的に献立について母体法人の栄養士のアドバイスを受けている。既往病の食事制限については、医療機関の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット毎で特徴は違うが、中庭を囲む回廊式スペースを上手に使い、ソファやベンチも使用しやすいよう計算し配置しており、安全手すりも設置している。職員と利用者が一緒に節分を行ったり、寄付された内裏雛などで季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりしたスペースの居室に、使い勝手の良い家具が備え付けており、好みの物や壁飾りを持ち込み、利用者の個性が出て居心地よく過ごせるよう工夫をしている。また、家族と一緒に泊まれる法人のゲストハウスや事業所内の部屋もある。		

※  は、重点項目。